

環境影響評価審査書

56 横須賀リサーチパーク計画基盤整備事業

I 総括事項

横須賀リサーチパーク計画基盤整備事業（以下「本件事業」という。）は、京浜急行電鉄株式会社（以下「事業者」という。）が、横須賀市長沢字よろし4000番ほかの58.8ヘクタールの土地（以下「実施区域」という。）において、情報通信及びその関連技術を対象とした都市近郊型の研究開発拠点を形成するため、研究所用地、居住施設用地、道路及び公園等の基盤整備を実施するものである。

実施区域は、大楠山から武山に続く丘陵地の南東端部が住宅地と接する地域に位置し、南東約1.5キロメートルには京浜急行久里浜線野比駅がある。実施区域周辺の北側から東側には、近年開発された住宅団地が広がり、北西側には県立岩戸高等学校、横須賀市立養護学校等の教育施設やN T T横須賀研究開発センタが隣接して立地している。また、南側から西側は、長沢川流域の農地や市道野比北武線を隔て武山近郊緑地保全区域へと続いている。

実施区域内は、北寄りを東西に走る尾根と、この尾根から南側へゆるやかに傾斜した丘陵地及びその間の谷からなり、標高は約40メートルから130メートルに及んでいる。その土地利用状況は、尾根部を中心に約8割が、ハゼノキ・カラスザンショウ群落を主体とした樹林地で占められており、また、谷部には湿地、農地、貯水池等が点在している。このように、実施区域には多様な自然環境が残っているため、豊かな生態系が維持されており、トウキョウサンショウウオやゲンジボタルなど、近年減少傾向にある両生類や昆虫類が生息していることや、サシバ等の猛禽類の生息域となっていることが確認されている。また、みどり豊かな実施区域は、住宅地等都市的な土地利用がなされている隣接地の住民にとって、身近な自然とのふれあいの場として、さらに地域の景観を構成する要素として、重要な役割を担っているといえる。

県が神奈川の環境の保全と創造を進めるためのガイドラインとして策定した「かながわ環境プラン」においては、実施区域の位置する三浦半島南部地域の環境づくりの重点として、丘陵地等は、「がけ崩れなどの自然災害発生の防止、生態系、景観、レクリエーション資源の保全の観点から、積極的に保全していくことが重要」であるとしている。

本件事業は、このような自然環境の中で、規模の大きな土地の形状の変更を行うものであることから、事業の実施に当たっては、次の諸点について十分配慮する必要がある。

まず第一に、多様な自然環境の創出についてである。

予測評価書案によると、本件事業は谷を埋め立てた後に、池や湿地等からなる水辺公園を整備し、野鳥、昆虫、その他動植物の生息する自然性豊かな環境を創出するとしているが、実施区域は、豊かな生態系を維持している地域であるため、事業実施に当たっては、現在の自然状態を極力残すことを基本としながら、可能な限り多様な自然環境を創出する必要がある。

第二に、周辺と調和した街づくりについてである。

実施区域のほぼ中央に建設を予定している高層建築物は、北から東側に続く尾根の稜線を大きく越え、周辺の住宅地を始めとする広範な地域から目視されることとなるため、景観の変化などによる生活環境等への影響が懸念される。したがって、地域の自然や景観と調和した街づくりを進めるという観点から、さらに建築物の形状や緑地の配置等に配慮し、将来にわたり良好な生活環境や教育環境を維持する必要がある。

第三に、造成工事に伴う災害の防止についてである。

本件事業では、実施区域の約3分の2に当たる広範囲の造成が行われるが、地盤が比較的軟弱であり、また、南側には活断層である北武断層が東西に走っており、さらに、地すべり地形も認められることから、造成工事における安全の確保には万全を期す必要がある。

以上、総括的な視点から審査結果について述べてきたが、各評価項目についての個別的な審査結果は次のとおりである。予測評価書の作成に当たっては、これらの内容を十分踏まえ、適切に対処する必要がある。

II 個別事項

1 騒音－建設作業騒音

予測評価書案によれば、実施区域周辺の最寄りの人家における建設作業騒音は、防音壁の設置により評価目標を満足するため、周辺の居住環境に著しい影響を及ぼすことはないとしている。しかしながら、実施区域の北西側等に隣接して教育施設が複数立地しているため、当該施設の授業等、教育環境に及ぼす工事中の騒音の影響が懸念される。したがって、その影響について、教室配置等を踏まえ予測評価を行い、結果によっては適切な騒音軽減対策を実施すること。

2 廃棄物

予測評価書案によれば、造成工事の実施に伴い発生する伐採樹木については、工事中のそだ柵等の仮設材やチップ材として有効利用するとしているが、一部については実施区域内で焼却処分するとしている。しかしながら、それらの量が具体的ではないため、明らかにするとともに、省資源、大気汚染防止の観点から焼却処分は極力抑え、より一層、有効利用する方策について検討すること。

3 電波障害

実施区域のほぼ中央に建設を予定している高層建築物は、尾根の稜線から、約50メートル突出する。このため、東京VHF波等のテレビジョン電波は、当該建築物により反射され、周辺地域住民のテレビジョン受信に影響を及ぼすおそれがあるが、その程度及び範囲について予測評価されていない。したがって、テレビジョン電波の反射障害について予測評価を行い、結果によっては反射障害を緩和する対策を実施すること。

4 地象

予測評価書案によれば、造成工事に伴い生じる盛土法面については、盛土基盤が比較的軟弱であるため、深層混合処理工法による地盤改良を行うことにより法面の安定を確保するとしている。しかしながら、工事中の施工管理方法や改良効果の確認方法等が明らかではなく、かつ、この実施区域は活断層である北武断層がほぼ東西に横断している。したがって、工事中の施工管理方法等について具体的に検討し、盛土法面の安定を十分確保すること。

5 動物

予測評価書案によれば、実施区域は樹林地、湿地、せせらぎ等多様な自然環境を有しており、とりわけ実施区域中央部に位置する谷は、貴重種であるトウキョウサンショウウオや重要種であるゲンジボタルが生息する等、多種の動物が生息している。したがって、本件事業の実施に当たっては、トウキョウサンショウウオをはじめとする多種の動物に配慮して、次の点について検討すること。

(1)水辺公園の整備について

造成計画によると、実施区域中央部に位置する谷は盛土されるため、トウキョウサンショウウオ等の生息環境が失われることとなる。このため、これら動物の生息環境の復元対策として、保存する緑地内に、池や湿地等からなる水辺公園を整備し自然性豊かな環境の創出を図るとしている。しかしながら、多様な自然環境の復元には、技術的な困難が伴うため、十分な調査や専門知識に基づく綿密な計画を策定すること。

また、創出された生息環境を将来にわたって維持・管理することが極めて重要であるため、その方策についても十分検討すること。

(2)トウキョウサンショウウオの保全について

予測評価書案によれば、トウキョウサンショウウオ等については、造成工事実施前に、卵塊等を一時的に実施区域及びその周辺の生息適地に移殖し、造成後は水辺公園に移すことにより、その種の保全を図るとしている。しかしながら、トウキョウサンショウウオの移殖については事例が少なく、実績も乏しいため、十分調査、研究し、その保全に最大限努力すること。

6 景観

予測評価書案によれば、高層建築物の形状・色彩等については今後さらに検討し、横須賀リサーチパークのシンボ

ルタワーとして、周辺の景観と調和するよう配慮することから、地域の景観に著しい影響を及ぼすことはないとしている。しかしながら、当該建築物は、尾根の稜線から最大約50メートル突出し、実施区域の北側の市街地やハイキングコースに位置している北西側の大楠山展望所等、周辺の広範囲な地域から目視されるため、地域の景観に影響を与えることが懸念される。したがって、周辺の景観との調和を図るために、当該建築物の高さや形状、色彩等について具体的に検討すること。なお、これらの検討に当たっては、可視領域の変化の程度を精査し、予測評価を行うこと。

7 その他

(1)供用後の発生交通による影響について

予測評価書案によれば、横須賀リサーチパークの予定人口は、昼間人口9,500人、夜間人口1,600人を想定していることから、供用後、通勤車両等の増加により実施区域周辺の道路が渋滞する等、地域の交通に影響を及ぼすことが懸念される。したがって、供用後に増加する交通が地域の交通に及ぼす影響について予測評価を行い、結果によっては適切な交通対策を実施すること。

(2)緑化計画について

造成工事により、実施区域北西側の教育施設に隣接するみどりが減少するため、当該施設の教育環境に与える影響が懸念される。したがって、その影響を軽減するため、当該施設に隣接する敷地境界沿いにみどりを極力厚く配置する等、緑化計画について検討すること。

(3)街づくりの考え方について

予測評価書案によれば、街づくりに当たっては、都市計画法に基づく地区計画制度等を導入することにより、みどり豊かでゆとりのある研究環境と良好な市街地の形成を図るとしている。また、研究所等の誘致に当たっては、騒音、振動の軽減及び大気、水質に係る汚染物質の排出の抑制等の条件を付し、周辺の閑静な住環境等に及ぼす影響を極力抑えるとしている。しかしながら、本件事業完了後に行われる研究所等の建設は本件事業者と事業主体が異なることが予想されるため、将来にわたり環境に配慮した街づくりが行われるような方策について検討すること。